

信州大学サポーターズクラブメルマガ第87号 2020年11月30日

信州大学サポーターズクラブ

メ | ー | ル | マ | ガ | ジ | ン | 第 87 号 |

信州大学サポーターズクラブ事務局

2020年11月30日

.....毎月月末に配信しています.....

【 I N D E X 】

シンダイ百科

信大からのお知らせ

信大マラソンが開催されました

信州の景色

■■■■■■■■■■ 【 シンダイ百科 】 ■■■■■■■■■■

「信州大学らんぷの会」

をご紹介します！

「信州大学らんぷの会」は小学生を参加対象としたデイキャンプを企画・運営している教育系ボランティアサークルです。現在7学部19人で活動しています。活動は今回はサークル代表の医学部小澤さんにお話を伺いました。

○詳細は次ページ以降をご覧ください。

■■■■■■■■■■ 【 信大からのお知らせ 】 ■■■■■■■■■■

nano tech2021にオンライン出展します

信州大学は、ナノテクノロジー分野世界最大級の展示会である「nano tech2021」にオンライン出展いたします。今年は東京ビッグサイトでの展示会開催とオンライン展示

のハイブリット展として開催されます。

○詳細はこちらから

<https://www.nanotechexpo.jp/main/>

■■■■■【信大マラソンが開催されました】■■■■■

今年は11月7日（土）に開催されました。信大マラソンは毎年開催されており、学生の授業の一環でありながら、一般の方の参加も可能なマラソン大会です。ただ、今年は昨今の状況から市民ランナーの参加は見送りとなり、学生のみが走る大会となりました。そんな例年とは違った大会で運営に参加した学生3人にお話を伺いました。

○詳細は次ページ以降をご覧ください。

■■■■■■■■■■【信州の景色】■■■■■■■■■■

冬の訪れをご紹介

メルマガ第86号ではアルプス公園から松本平と北アルプスの初冠雪の様子をお届けしました。今月はもうすぐ迎える冬景色を一足早くお届けします。

○詳細は次ページ以降をご覧ください。

メルマガのバックナンバーはこちらから

<http://koyukai.shinshu-u.ac.jp/mail/>

『信州大学サポーターズクラブメールマガジン』

編集・発行/信州大学サポーターズクラブ事務局

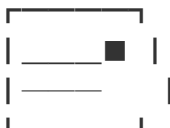
長野県松本市旭 3-1-1

【Mail】 koyukai@shinshu-u.ac.jp

【HP】 <http://koyukai.shinshu-u.ac.jp/>

【FB】 <https://www.facebook.com/shindai.koyukai>

2020.11.30



信州大学サポーターズクラブ【シンダイ百科】第87号

Q. 信州大学らんぷの会はどんな団体ですか？

A. 小学生向けのデイキャンプ（日帰りキャンプ）の企画・運営を主な活動とし、その企画を通して、子どもと大学生でお互いにふれあい、学びあう空間を作ることを目指して活動しています。その他にも、クラフトフェア飯田の運営スタッフなど、イベントスタッフのようなボランティア活動も積極的に行っています。



【過去の企画会議の様子】

Q. 主な活動内容を教えてください。

A. 私たちは、飯田市のかざこし子どもの森公園と協力して、小学生を参加対象としたデイキャンプを企画・運営している教育系ボランティアサークルです。デイキャンプは、キャンプという名を冠していますが、テントを張って宿泊をするのではなく、回ごとにテーマ（『熱』『宇宙』など）に沿った楽しみながら学べる企画を、料理・アクティビティの二本立てで一日かけて行う教育系イベントです。



【2019年12月開催のデイキャンプ テーマは「熱」】



【同じく 2019年12月開催のデイキャンプ テーマは『熱』】

Q. 今後、力を入れていきたい活動を教えてください。

A. 新型コロナウイルスの影響により、現在はデイキャンプが行えない状況にあるため、現在はオンラインでの活動を中心に行っています。

週に一回オンラインで定例会を行っており、その中で一つの企画を作る練習、自分の考えを人に説明する練習、デイキャンプ中に実際に行うレクリエーションの練習など、活動する上で身に付けておきたい様々な力を養うことを目的に、今だからできる活動を行っています。

今後はオンラインでの新歓懇親会や、実際の企画時と同様にデイキャンプの企画の練習を行う企画シミュレーション会議などを予定しています。

実際にやってみたからこそ分かる面白さや、難しさがありますよね。今できる活動は限られてしまうかもしれませんが、部員の方々の努力が実って、これまでのように小学生の皆さんが楽しんでもくれる日が一日も早く来るといいなと思います。インタビューへのご協力、ありがとうございました。

信州大学サポーターズクラブ【信大マラソン】第87号

今年の信大マラソンは2020年11月7日（土）に開催されました。

信大マラソンは、2013年に全学教育機構の「スポーツ実践演習（教員の免許状取得のための選択科目）」の授業として第1回が開催され、今年は8回目の開催となりました。2014年からは、マラソンを通じて、学生と一般市民が交流することを目的に一般市民ランナーの募集が始まりました。昨年の大会は約300名という大変多くの参加者が集まりましたが、今年は昨今の状況を鑑みて、一般市民ランナーの募集は見送る形となり、学生のみが走る大会となりました。2020年の信大マラソンは例年とは違った形での開催となりました。

そこで今年は視点を変えて、大会を裏側から支えた、運営に携わった学生さんにお話を伺いましたので、ご紹介いたします。

一人目は市岡里菜さん、二人目は宮下紀香さん、三人目は小川沙玖さんです。皆さん教育学部ものづくり・技術教育コースに在籍しています。（以下、市岡さん 宮下さん、小川さんと表記）



Q)今回信大マラソンの運営に携わろうと思ったのはなぜですか？

「昨年も運営に携わって、良い経験になったからです。」（市岡さん）

「参加者の方々を応援したかったからです。」（宮下さん）

「信州大学70周年記念の時に初めて信大マラソンに携わったのですが、こんなに大勢の方々が懸命に走る姿が胸に刺さり、ランナーの爽快感が直に伝わってきてお手伝いできることが嬉しかったためです」（小川さん）

Q)運営の仕事はどんなことをするのですか？また、その中で一番印象に残っていることは 何ですか？

「主に給水や、ランナーの誘導、タイムの記録等、ランナーのサポートを行います。」（市岡さん）

「コロナの関係で今回は信大生だけの参加だったのですが、普段であれば一般の方々も参加するため、受付で出席確認、ゼッケンの配布、距離を測定するICチップの配布などを行います。3か所ほどのスポットでの給水所の設置と対応も行います。他にも参加者のサポートを行うさまざまな仕事があります。一番印象に残っている仕事はコース誘導です。」（宮下さん）

「給水所に待機し、選手にドリンク配布、選手のタイム記録、後片付けを行います」（小川さん）

Q)運営の仕事で一番大変だと感じたこと、またやりがいを感じたことはなんですか？

「ランナーの誘導で、コースを外れてしまう人が出たり、風で誘導用の看板が倒れたりして、大変でした。しかし、私たちが声援を送ると、走者の方から「ありがとう」と言ってもらえて、やって良かったと思いました。」
(市岡さん)

「各参加者のある地点でのタイムを記録し、どれだけ走ったか把握することです。」(宮下さん)

「タイム記録は責任重大であるため、メンバーとコミュニケーションを図り行ったのが大変でした。同時にやりがいを感じました。」(小川さん)



Q)昨年も信大マラソンに参加したとのことですが、昨年はどんな携わり方だったのですか？

「昨年は走者ではなく、運営として携わっていました。」(市岡さん)

「昨年も運営側として参加しました。」(宮下さん)

「昨年も運営側として参加いたしましたが、選手から感じた走ることの爽快さは自身も今にも走りたくなるような心持ちになりました。」(小川さん)

Q)昨年・今年と運営側として信大マラソンに携わり、いろいろ感じる ところがあったと思いますが、貴方にとって「マラソン」とはどんなものになりましたか？

「運営側に立って、マラソンは走る人だけではなく、サポートする人がいてこそできるものだと思います。」(市岡さん)

「運営側しか経験していませんが、走るということへの考え方が変わりました。短距離とは違うフォームや完走するという参加者の気持ちが分かり、去年よりも応援の気持ちが強くなりました。」(宮下さん)

「心身ともに健康になれ、生活を豊かにしてくれるものだと感じています。」(小川さん)

Q)来年信大マラソンに参加する後輩に一言お願いします。

「走者の方も、運営の方も、最後まで頑張ってください。」（市岡さん）

「無理をせずに楽しんで完走してください！」（宮下さん）

「選手の皆さんも、運営側の皆さんも目標をそれぞれ持って、全力で取り組んでいただきたいです！信大マラソンを機に、生活が活力あるものになることを願っています。」（小川さん）



今年は生憎とお天気が今一つでしたが、参加した学生さんはやりとげた顔をされていて印象的でしたね。お話を伺った三人の方々も、運営に携わったからこそ「何か」を感じたようです。

インタビューを通して、まずは何かを「やってみよう」という気持ちを見習わなくてはいけないな。と痛感しました。市岡さん、宮下さん、小川さん、参加された学生の皆さん、お疲れ様でした。

信州大学サポーターズクラブ【信州の風景】第 87 号

これまでサポーターズクラブで撮りためた数々の写真の中から、以前のこの時期の様子はどんな風だったかを写真でご紹介します。

2015 年 11 月 28 日に美ヶ原高原の王ヶ鼻で撮影された写真です。



晴れた冬の青空と雪の白がとても綺麗ですね。撮影時のメモには、美ヶ原の台上で足首ぐらい、吹き溜まりなど場所によっては膝下まですっぽり埋まってしまうぐらい積もった箇所もあったとのこと。今年の 11 月は後半暖かい日が続いたので、この降雪量はちょっと信じられない量ですね。

次は 2016 年 11 月 14 に上高地で撮影された写真です。



撮影タイトルは「上高地霧氷」とありました。『霧氷』とは「着氷現象の一種で、氷点下の環境で樹木に付着して発達する、白色や半透明で結晶構造が顕著な氷層の総称のこと」だそうです。厳しい冬の到来のサインではありますが、夏や秋では味わえない厳かな雰囲気醸し出していますね。